

デザイン美術学科

科目名 (科目コード)	専攻実習3 [絵画] 【2125】	配当年次	2	担当教員	井上 孝博	対象 区分	—	—	—
		単位数	1				—	—	—
授業の ねらい	人工的美・自然美の仕組み・状況・調和・法則など、対象を観察することにて知覚・認識し、それらを生かしてモノクロ・カラーで画面上に“作品”として写實的に描写表現できる力を養う。								
授業の 計 画	<p>1.「描写・写実・エンピツデッサン」についての概説。</p> <p>2.「幾何形態を^{モチーフ}対象」にしての鉛筆デッサン。</p> <p>3.人工的な数字で割り切れる造形物(幾何形態)をモチーフにして、その形態を科学的・合理的・図式的に整理分析して、より図解的にまとめてその形態の構造・仕組みをキャッチする把握力(察視力・認識力)と実写力を養う。</p> <p>4.幾何形態を応用にしたモチーフ(ビン・カン・ボール・紙コップ・角砂糖・箱など)の写実描写。</p> <p>5.造形物の科学的認識要領を具体的に図化する訓練を、幾何形態の応用で製造された日用品を対象にしてそのフォルム・材質感・量感・特徴・実在感を的確な観察でリアルに描写することにより行う。</p> <p>6.「自然物をモチーフ」にしての鉛筆デッサン。自然の法則にて出来た形態美・秩序の在り方・個性的存在感・自然観を把握し、対象のもつ^{オルガニック}有機的な特徴を生かすよう美的に表現描写する訓練をする。</p> <p>10.(自分の手・顔・植物・鳥のハクセイ・卵など)</p> <p>11.「幾何形態の応用的対象物や自然物(静物)の盛り合わせをモチーフ」にしての水彩描写。</p> <p>12.「色彩」「水彩画」についての説明。</p> <p>13.水彩画の^{テクニック}技法の指導。</p> <p>14.対象物どうしの相関関係や主従関係・配置・構図・色彩の調和美も考慮し、そのものの^{かも}醸し出す雰囲気・情緒も感知し描写する。</p> <p>15.色彩を用いて、より一層リアルに表現し、その実在性に迫る。</p> <p>「作品としての制作体験(画面構成・画面上の緊張感・色彩の充実・美的バランスなど)をさせる。</p>								
教科書	なし。 なお、参考書として『絵画』図書出版文理閣発行 井上孝博著 本体3,000円(税別)をスクーリング授業内で紹介する(希望者は購入可能)。								
持参物	木炭デッサン用の大きなカルトン(画板)・エンピツデッサン用具一式(エンピツ2H B 2B・消しゴム・カッターナイフ・紙ヤスリ 500番の細かさのもの)・水彩画用具一式(水彩絵具12~24色・パレット・水入れ・雑巾・彩色用丸太筆・丸中筆・丸細筆・面相筆…各2本ずつ・平刷毛…1本・ちり紙)								
評価方法	作品提出と受講態度の総合評価								